

気候変動や社会情勢の変化を踏まえた今後の治山対策の在り方検討会

■ 検討会の設置目的

- ▶ 林野庁では、平成29年九州北部豪雨、平成30年7月豪雨（西日本豪雨）などの激甚な山地災害が発生した際に、都度、技術的な検討を行い、被災地復旧及び全国的な対策強化へ反映。
- ▶ 令和3年には、気候変動による豪雨の激化や流域治水の取組などを踏まえ、治山対策の在り方についてとりまとめ。
- ▶ 今回、こうした検討内容を踏まえつつ、**新たな課題**（災害発生の全国化、複合的要因による災害発生、大規模林野火災の発生、シカ食害による裸地化進行等）や、**社会情勢の変化を踏まえ、今後の治山対策の方向性を示すことを目的に開催。**

■ 検討会メンバー

石川 芳治 東京農工大学 名誉教授（座長）
浅野 志穂 国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林総合研究所 研究ディレクター
（国土保全・水資源）

五味 高志 名古屋大学 教授
酒井 佑一 宇都宮大学 助教
篠原 慶規 宮崎大学 准教授
堤 大三 信州大学 教授

※オブザーバー 秋田県、長野県、兵庫県、長崎県
中部森林管理局、近畿中国森林管理局

■ 検討会の開催状況・議題

- 第1回：令和7年10月16日【治山対策の現状・課題】
- 第2回： 11月25日、26日【現地検討会（長野県内）】
- 第3回：令和8年2月24日【とりまとめ（案）】
- 第4回： 3月4日～12日【とりまとめ（持ち回り開催）】



■ とりまとめ（今後の施策の方向性について）

① 災害の激化への対応、複合的な要因による山地災害対策

- ・ **国土強靱化対策の推進**（山地災害危険地区における対策完了率向上）
- ・ **国の直轄事業**による大規模崩壊地等の集中的な復旧支援
- ・ 短期で施工可能な**二次製品の導入、応急資材のストック確保**
- ・ **閉塞しやすい橋梁等の上流域における流木対策**
- ・ 広域災害における**ヘリコプター・UAVによる緑化の有効活用**
- ・ **林野火災跡地やシカ食害地等での土砂流出・崩壊防止対策の実施**
- ・ 大学や測量会社等と連携した**山地の危険情報の早期取得・提供**

② 自然的・社会的変化に応じた予防対策

- ・ **まとまったエリア・期間を設定し、地域関係者と連携した対策**の導入
- ・ **平時における地域関係者間の合意形成促進**（同意取得の困難化への対応）
- ・ **災害発生の周期性や免疫性**の考え方を取り入れた**対策箇所の選定**

③ 流域全体の保全対策

- ・ **流域治水対策との連携**
- ・ **裸地化・侵食等の早期発見のためのモニタリングの継続実施**
- ・ 予防治山計画への活用を見据えた**山地における地下水の動態把握**
- ・ 林地の水涵養定量評価手法の普及（企業等の多様な主体による森林保全の促進）

④ 事業実施の効率化

- ・ **危険性の高い現場での作業・検査等を避ける技術や基準の導入・整備**
- ・ **新技術の実証とデータ蓄積**による**標準歩掛の設定**
- ・ 複数年契約制度の有効活用による**労務の平準化**

⑤ 中期的な視点による技術開発等

- ・ 以下の場面での技術開発を推進
 - ① **災害時初動対応**をスピードアップするための技術開発
 - ② **対策の実施箇所の選定**に当たっての技術開発
 - ③ **工事の実施段階**での技術開発
- ・ **現場ニーズと新技術とのマッチング**
- ・ 治山に関わる人材育成と人材確保